

新型コロナウイルス感染の疑い発生時の緊急対応について

令和2年12月

栃木県農業大学校

栃木県農業大学校では、学校一丸となって新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んできましたが、社会的な発生拡大に伴い感染リスクが高まっています。感染の疑いのある症状が発生した場合の対応を示します。感染まん延防止を図るため、情報共有と連絡の徹底を厳守願います。

1. 新型コロナウイルス感染の症状

新型コロナに感染した疑いのある症状としては次のとおり。

- ☆ 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
- ☆ 発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
- ☆ 味覚・臭覚の異常(食べ物の味や臭いが感じられない)
- ☆ 体温が37.5度以上の場合は、一般に発熱とみなします。

※発熱は、感染症や腫瘍、炎症などにより起こります。症状には個人差があるので平熱とあわせて判断する。発熱が認められる場合は、毎日体温を測定し体温と時間を記録する。

以上のような症状がある場合には、早急に関係者(学生は学校に、職員は管理者)に連絡し、登校を控え、対応の指示を受ける。

2. 学校・職場への連絡の注意点

症状だけで、なぜかコロナ感染症かを判断することは難しい。そのため、重要となるのは症状の出た本人又は家族等が、新型コロナウイルスに感染のリスクがある場面や接触等の行動をしていたかが重要となります。

疑いのある症状があった場合は、発症前2週間(最低1週間)の生活行動の中で濃厚接触や感染リスクが高い要因の有無について確認する。

直近2週間の感染リスクへの接触や行動があったかどうか、その内容も同時に報告する。

連絡先	農業大学校 028-667-0711 (代表) 又は各指導担当
-----	------------------------------------

3.感染症の疑いがあった場合の対処法

学生・職員で発熱等感染症の疑いのある症状が出た場合の対処として次により行う。学校は連絡を受け、症状や行動経過を参考に今後の対応について判断・指示を行う。

ア) 発生状況や行動経過において疑いや感染リスクが低い場合

- ・自宅待機とし、早急に医師の診察を受けさせる。

医師の指示を仰ぎ(疑いが無い場合)、学校に結果を報告後、医師の指示に従い自宅で療養する。

イ) 発生状況や行動経過から疑いや感染リスクが高い場合

- ・自宅にて(学校内発生では自宅に帰宅させる)、かかりつけ医又は検査のできる医院を確認し、検査を受けさせる。

診察・検査を受け、結果を学校に報告する。結果に時間を要する場合は医師の指示に従い自宅にて結果を待つ。

- ・学校では結果が判明するまで、本人又は校内において直近2週間(最低1週間)の濃厚接触者となった学生又は職員の聞き取りと確認(洗い出し)を同時並行で行う。状況に応じアルバイト等外部との接触予定のある学生の今後の対応方法について検討する。
- ・結果が陰性の場合は、緊急対応は解除する。
- ・結果が陽性となった場合は、「4. 新型コロナウイルスに感染した場合」で対応する。

ウ) 寮生で感染の疑いが発生した場合

- ・感染リスクが低い場合は、校医又はかかりつけ医への診察を指示し、軽症及び行動経過に懸念のない場合は部屋で症状が落ち着くまで休養し経過観察する。その際、部屋からの不要な外出はしない。食事、風呂、トイレ等、密接とならないよう配慮する。必要に応じて自宅に帰す(親に迎えを依頼する)。
- ・感染リスクが高い場合は、医師及び検査対応は上記イ)に同じ。
- ・自宅に帰す(親に迎えを依頼する)。
- ・寮内及び校内において濃厚接触者に該当する学生がいるか確認の聞き取りを早期に実施。濃厚接触者がいた場合は体調確認を行い、行動を規制(部屋内待機等)し、検診(検査)の有無等を検討する。
- ・検査の結果が出るまで、寮生全員のアルバイトは一時禁止する。

感染症の疑いのある場合の連絡先

①	農業大学校産業医	藤田医院	028-667-0768
		平野医院	028-667-8778
②	かかりつけ医等医療機関に連絡ができない場合		
	受診・相談センター（医療機関案内）		0570-052-092
	宇都宮保健所	新型コロナ生活相談センター	028-623-5334

感染症に感染した場合又は疑いのリスクが高い場合の県庁緊急連絡先

①	経営技術課	028-623-2317
---	-------	--------------

4.新型コロナウイルスに感染した場合

検査（PCR 検査）の結果、陽性となった場合の対応は次のとおりとする。

ア) 医療機関（保健所）の指示を受け、入院等対応する。

イ) 校内において発症者と濃厚接触者の再確認と該当者の体調確認を早急に行う。

濃厚接触者の疑いがあった場合、接触しないよう自宅待機又は寮内部屋等で外部接触しない指示を行い、保健所の指示に従い対応する。

ウ) 発症者に関係する持ち物や接触したものの確認を行い、保健所の指示に従い消毒等の協力を
行う。

エ) 学生寮入居者の場合

- ・寮生の濃厚接触者の再確認と体調確認を早急を実施。該当者の部屋等接触したものの隔離を行い、消毒対応等保健所の指示に従う。
- ・寮生全員外出禁止とし、保健所の指示を待つ。必要に応じ保健所の指示を受け自宅に帰す。
- ・寮内で待機となった場合は、改めて感染防止対策を周知し、共有スペース（ロビー、洗面所、トイレ、風呂等）の利用の方法を指示する。

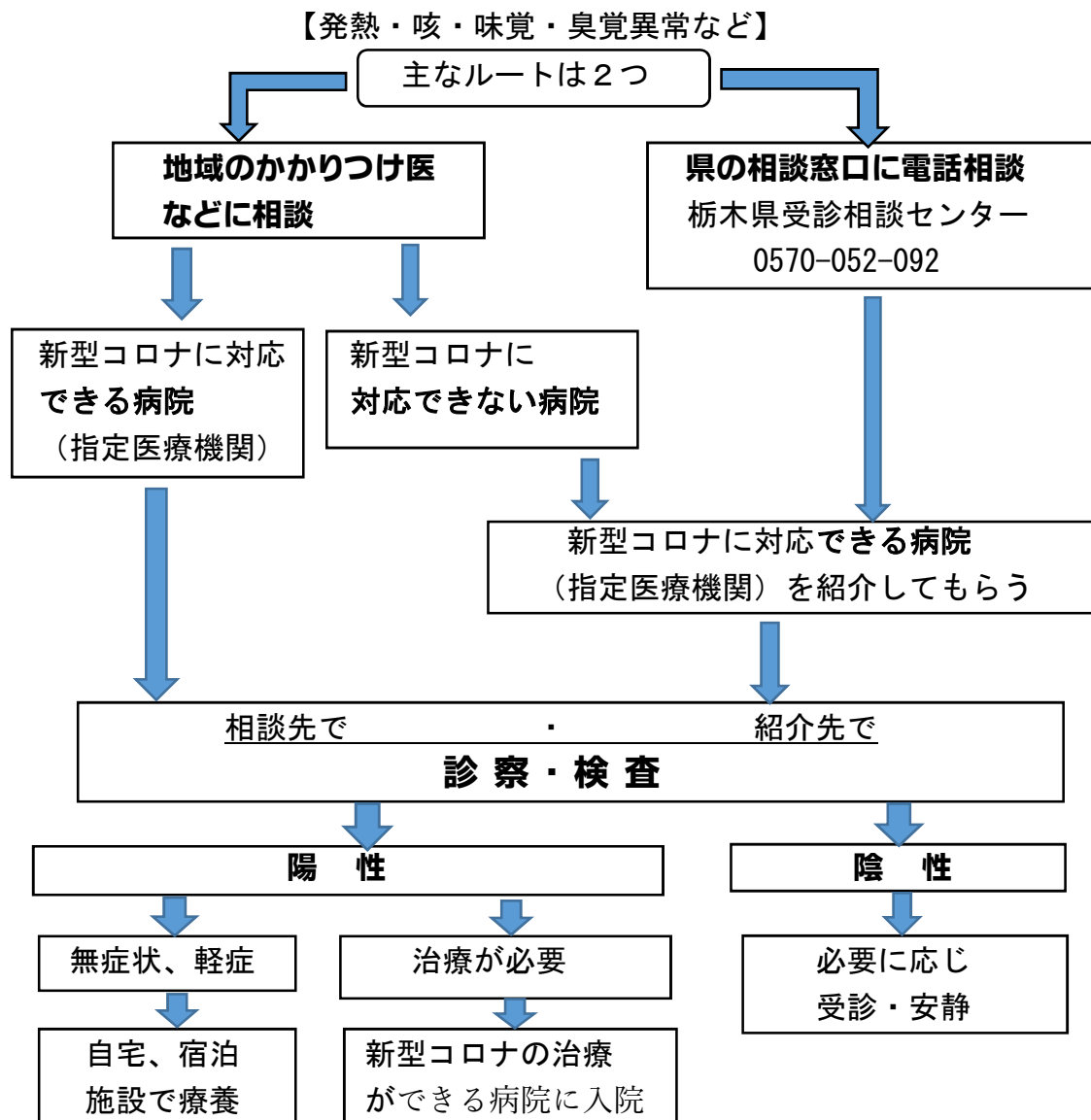
オ) 学校運営対応

- ・感染まん延防止対策の徹底について情報提供並びに対応を行う。
- ・今後の授業等の対応方針をまとめ、関係者（学生、父兄、本庁等）へ早期に周知する。

《参考資料（「新しい生活様式」の実践例等より）》

●新型コロナウイルス感染の疑いがあった場合の連絡体制

「新型コロナウイルスに感染したかも」確認ルート例



●新型コロナ感染に要する一般的な経過観察

新型コロナウイルスの潜伏期間は1～14日間(多くは5日程度)ほどとされており、感染してから症状を発症するまでの平均期間は5～6日ほどとWHOは報告している。潜伏期間から、濃厚接触となった方は14日間の隔離が必要とされている。

検査の結果、新型コロナウイルス感染が陽性であった場合には、発症する2日前から発症後7～10日間程度が感染可能期間(人にうつしてしまう可能性のある期間)としている。

つまり14日間は人に移す可能性が高いとしている。

●新型コロナウイルス感染リスクを高める場面の回避と防止

新型コロナウイルス感染症は、屋外で歩く際や、十分に換気がされている公共交通機関での感染は限定的であると考えられていますが、「クラスター」と呼ばれる集団感染が、感染を拡大させることが分かっています。これまでのクラスター事例の分析から、感染リスクを高める「5つの場面」が分かってきました。

感染リスクを下げる取り組みが特に必要な場面

1. 飲酒を伴う懇親会等
2. 大人数や長時間におよぶ飲食
3. マスクなしでの会話
4. 狭い空間での共同生活
5. 居場所の切り替わり

新型コロナウイルスの感染者と近距離、或いは長時間接触した方は、感染リスクが高くなります。一方で、感染者から他人に感染するリスクは、熱や咳(せき)などの症状が出る1日から2日前が高くなっていることがわかってきました。したがって、自分をまもり、他人をまもるには、陽性者と接触した可能性がある方が、早急に検査の受診を受けることが重要です。

●新型コロナウイルス感染予防対策「新しい生活様式」

厚生労働省では新型コロナウイルス感染症予防対策として、「新しい生活様式」の実践例を提言し、発生防止を呼びかけています。

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本

① 身体的距離の確保、② マスクの着用、③ 手洗い

- ・人との間隔は、できるだけ2m、最低1m空ける。
- ・会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- ・外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は熱中症に十分注意する。
- ・家に帰ったらまず手や顔を洗う。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- ・手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う手指消毒薬の使用も可。
- ・感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。

- ・発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- ・地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ・まめに手洗い・手指消毒
- ・咳エチケットの徹底
- ・こまめに換気
- ・身体的距離の確保
- ・「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ・一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ・毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

これら、「三つの密」の回避や、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染症対策を継続し、感染症の予防対策の徹底が重要となる。

●感染症の疑いがあった場合の自宅待機の注意点

本人又は家族に新型コロナウイルスの感染が疑われる場合や、家庭待機となった場合に注意すること。

ア) 本人は外出を避ける

ご家族、同居されている方も熱を測るなど健康観察をし、不要不急の外出を避け、特に咳や発熱などの症状があるときには、学校・職場などには行かない。

イ) 部屋を分ける

個室にする。食事や寝るときも別室としてください。部屋数が少ない場合など部屋を分けられない場合には、少なくとも2mの距離を保ち、仕切りやカーテンなどの設置をする。

ウ) 感染が疑われる家族のお世話はできるだけ限られた方で

心臓、肺、腎臓に持病のある方、糖尿病の方、免疫の低下した方、妊婦の方などが感染の疑われる家族のお世話をするのは避ける。

エ) マスクをつけましょう

使用したマスクは他の部屋に持ち出さない。マスクの表面には触れないようにする。マスクを外した後は必ず石鹸で手を洗うこと（アルコール手指消毒剤でも可）。

マスクが汚れたときは、新しい清潔な乾燥マスクと交換する。マスクがないときなどに咳やくしゃみをする際は、ティッシュ等で口と鼻を覆いましょう。

オ) こまめに手を洗いましょう

こまめに石鹸で手を洗いましょう。アルコール消毒をしましょう。洗っていない手で目や鼻、口などを触らないようにする。

カ) 換気をしましょう

風の流れることができるよう、2方向の窓を1回、数分間程度全開にしましょう。換気回数は毎時2回以上確保する。

キ) 手で触れる共有部分を消毒しましょう

物に付着したウイルスはしばらく生存します。ドアの取っ手やノブ、ベッド柵など共有部分は、薄めた市販の家庭用塩素系漂白剤で拭いた後、水拭きしましょう。

ク) 汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう

体液で汚れた衣服、リネンを取り扱う際は、手袋とマスクをつけ、一般的な家庭用洗剤で洗濯し完全に乾かしてください。

ケ) ゴミは密閉して捨てましょう

鼻をかんだティッシュはすぐにビニール袋に入れ、室外に出すときは密閉して捨ててください。

コ) 咳などの症状がある方は、咳エチケット（口を布等で覆うなど）を行う

咳やくしゃみを手でおさえると、その手で触ったドアノブなど周囲のものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他者に病気をうつす可能性があるため、咳エチケット（口を布等で覆うなど）を行うこと。